道民に訴える医療の深刻な危機

札幌大通で街宣行動

本会は9月6日、札幌大通公園で医療機関の窮状を道民に訴える街頭宣伝行動を行った。当日は「従来の健康保険証を使い続けたい！」と記した署名用紙入りティッシュを配布し、社会保障制度の問題や健康・予防の重要性を訴えた。健康保険証廃止や患者負担増へ不満の声が多く寄せられ、道民の関心の高さが示された。

▶道民へ訴えかける橋本透会長

当日は、役員、事務局計18人が参加。街ゆく道民一人ひとりに「従来の健康保険証を使い続けたい！」と記した署名用紙入りティッシュを配布し、社会保障制度の問題点などを訴えた。

冒頭、橋本透会長は高額療養費制度について言及し「患者の治療・療養を支える命綱であり、負担上限額の引き上げは世代を問わず大きな影響を及ぼす」と批判した。制度見直しの理由とされる財政逼迫は実態に合わず、保険料軽減効果も微小だと指摘した。今後の専門委員会の議論に向け、上限額引き上げ阻止を訴えた。

その後、役員が交代で医薬品の供給問題、地域医療機関の閉院問題、保険証の廃止反対、歯科医療に関する課題について訴えた。

北村三穂広報副部長は、医薬品不足はジェネリックメーカーの不正や供給体制の脆弱さ、国の医療費削減政策に起因すると指摘した。飲み慣れた薬が使えず負担増につながる問題を訴え、安定供給と必要な医療の保障を求めた。

請願署名入りのティッシュを配布

池田博理事は、地域医療機関の閉院について、人口減少や高齢化、人材不足で深刻化していると呼びかけ、広大な地域を有する北海道の特殊性を踏まえ改善を訴えた。

伊藤正美政策部長は、保険証の廃止について、マイナ保険証は更新忘れやシステム障害で無保険扱いとなる恐れがあり、患者や医療現場に混乱を招くとして、健康保険証廃止撤回を主張した。

小野木宏仲広報副部長は、嚥下障害や構音・発音障害の原因となるオーラルフレイルについて、かかりつけ歯科での定期的検診とフレイル予防の重要性を強調した。

大友康資理事は、子どもの口腔機能を育てるためには虫歯予防や治療だけでなく「食べる・話す・呼吸する」といった機能を診断・治療していく必要があると訴えた。

立ち止まる道民からは「健康保険証がなくなるのは困る」「医療費の負担増大に不安を感じる」など、切実な声が多く寄せられた。

本会は、道民の声を国会へ届けるとともに国民皆保険の充実と、安心して受けられる医療の実現を求め活動を継続する。

北海道保険医新聞

発行所・北海道保険医会
〒060-0042
札幌市中央区大通西６丁目
北海道医師会館３Ｆ
TEL.(011)231-6281
FAX.(011)231-6283
編集発行人 橋本 透
●毎月５・20日発行
●定価１部〒共200円
●郵便振替 02790-3-20354
(会員の購読料は、会費に含まれています。)
Eメール info@h-hokenikai.com
本会のホームページアドレス
http://h-hokenikai.com/
是非ご覧ください

—主な目次—

2面…●時論「進む医療地域偏在」
●解説「医療機関赤字増 消費税負担重く」
3面…●どさんこ通信179（北広島市）
●読者のひろば
4面…●医科保険診療研究
●保険医こぼればなし

函館地区支部講演会

口の重要性語る 黒岩氏が講演

くるりーナ ブラシの

函館地区支部と本部の共催により、8月3日函館市民会館で黒岩恭子氏（村田歯科医院院長）を招き、「なぜ『黒岩恭子の口腔ケア&口腔リハビリ』は食べられる口になるか」と題した講演会を開催した。

講師の黒岩 恭子 氏

講演会に先立ち、橋本透会長が「本会は医科歯科一体で活動しており、共通の病域について、昨年と今年に研修会を行った。本日は口腔ケア・リハビリのお話を伺えることを大変意義深く思う。今後もこのような会が広がってほしい」と挨拶した。

黒岩氏は、超高齢化社会における多様な健康課題の中でも「口の重要性」に着目。口は栄養摂取の入り口であり、口腔内の筋力低下が全身の健康に直結すると指摘した。また、長年の在宅現場での経験を踏まえ、口腔ケアの重要性を説くとともに、自身が開発した口腔ケア用品を動画で紹介した。講演後半では模擬患者を交えて、参加者とともに実技を交えた口腔ケアの実践を行った。

当日は93人が参加し、終了後も質疑応答が活発に行われ、参加者の関心の深さが感じられた。

当日の講演内容はYouTube(右記QR)からご覧いただけます。是非ご視聴ください。

※配信は予告なく終了する場合がございます。

2025公開医政講演会
高額療養費制度について

日時　10月11日(土)15:00～16:30

場所　北海道医師会館8階会議室
(札幌市中央区大通西6丁目6)

対象　どなたでもご参加いただけます。
参加無料　※先着100名
(オンラインでの参加も可能です)

申込　参加ご希望の方は事前にお申込みをお願いします。
右記QRまたは本会ホームページからお申込みください。

日本福祉大学 名誉教授

講師：二木 立 氏

千里眼

7月の参議院選挙では既存政党に加え新たな政党も現れ、国民の選択肢が増えた。その中で最近ポピュリズム政党への投票が増加していると言われている。欧米では日本より先にその傾向があり、経済格差が大きくなるほど広がるようだ▼ポピュリズムとは一般に「大衆迎合主義」と訳され、エリート層や既存政治を批判し不満層の支持を得るスタイルで、右派でも左派でも現れる可能性がある。右派では移民排斥、民族主義的な傾向があり、過去にはドイツのナチスや現在のアメリカのトランプ政権が典型例である▼ポピュリズムは社会の不安や不満を煽り、敵を作ることで社会の分断を生む。一方、既存政治の欠点を指摘し、問題点を政治に反映させる役割もある。しかしながら多数派を重視するために少数派の排斥となり、極端な政策につながる恐れがある▼現実にトランプ政権での医療政策において、WHOからの脱退や反ワクチン主義者の登用が行われ、これからの感染症対策が危惧される状態となっている。日本での今後のポピュリズム台頭には警鐘を鳴らさなければならない。（YI）

解説

医療機関赤字㊗消費税負担重く

医科　医薬品・特定保険医療材料の購入に係る消費税アンケート

本会は今年7月に道内病院・有床診療所（以下、有床診）を対象にした「医薬品・特定保険医療材料の購入に係る消費税アンケート」を実施し、209件（病院124件・有床診85件）の回答が寄せられた。本稿ではその調査結果と概要を報告する（未掲載のグラフや自由意見はタイトル横のQR参照）。

回答者の院所の所在地は、札幌市内38・3％、札幌近郊3・8％、その他の地域が57・9％で、道内各地から幅広く声が寄せられた。

許可病床数は「19床以下（有床診）」が40・7％で最も多く、次いで「100～199床」が24・9％、「50～99床」が18・7％となり、50床以上199床以下の病院からの回答も多かった。病床機能では「急性期」が54・8％と回答の半数以上を占めた。

2024年度決算、6割超が赤字

2024年度決算で黒字と回答したのは34・0％（10％未満28・2％、10～20％1・9％、20％以上0・5％、割合不明3・4％）にとどまった図1。

一方、赤字は66・0％（10％未満25・2％、10～20％11・7％、20％以上16・5％、割合不明12・6％）に上り、6割以上の医療機関で経営悪化が明らかとなった。止まらない物価高騰により、今年度はさらに状況が深刻化しているとみられる。

医薬品の消費税負担、半数超が赤字

保険請求が可能な医薬品に対する消費税の影響では、黒字と回答したのは40・9％（10％未満33・5％、10％以上1・6％、割合不明5・8％）だった図2。

これに対し、赤字は56・6％（10％未満25・7％、10％以上12・6％、割合不明18・3％）を占め、全体で過半数以上の医療機関が逆ザヤに陥っており、医薬品の消費税負担が経営を圧迫している実態が明らかとなった。

特定保険医療材料の赤字割合、医薬品超え

保険請求が可能な特定保険医療材料に対する消費税の影響では、黒字が27・0％（10％未満23・3％、割合不明3・7％）にとどまった図3。

一方、赤字と回答したのは全体の58・7％（10％未満27・5％、10％以上14・8％、割合不明16・4％）を占め、結果として医薬品の赤字をやや上回り、半数を超える医療機関が逆ザヤに陥っていた。

消費税手当、9割近くが「不十分」

診療報酬における医薬品・特定保険医療材料などの消費税部分（実際には診療報酬で補填されず医療機関の持ち出しとなる部分）の手当について、全体の87・4％が「不十分である」と回答した（「十分である」0・5％、「わからない」12・1％）図4。

さらに、医薬品や特定保険医療材料の購入時にかかる消費税の今後の在り方については「購入時の消費税を0％にする」が最も多く62・2％、次いで「ゼロ税率を適用させる」12・4％、「支払い時に転嫁する」8・8％となった。

厚労省調査では、消費税引き上げに伴う補填は概ね実施されているとされてきた。しかし、現行制度の補填が不十分であることが判明し、不満は強く、多くの医療機関が消費税負担の早急な軽減を求める実態が明らかになった。

◇　◇　◇

本会は今回の結果をもとに、国・厚労省に医療機関の実態を伝え、2026年度の診療報酬改定に向けて、今後とも診療報酬の増額を強く求めていく。

時論

進む医療地域偏在

2025年上半期の集計によると医療機関の倒産は35件と、過去最多を記録した24年の64件を上回るペースで進む。内訳は病院が9件（23年3件、24年6件）、診療所12件（23年23件、24年31件）、歯科医院14件（23年15件、24年27件）で、病院および歯科医院で過去最多に並ぶ水準で推移している。

倒産増加の背景には収益性の悪化がある。新型コロナ5類移行後も患者数の回復が見込めない中、近年のあらゆる物品の高騰は医療機器・材料の価格、光熱費など広範囲に及び、加えて人件費の高騰も強く影響している。本会アンケート（解説参照）でも、医薬品・特定保険医療材料に係る消費税が経営を圧迫している実態がうかがえた。一方、収入源である診療報酬は抑制され、支出超の補填には程遠い。中小規模の医療機関では、拙速過ぎる医療DXの導入対応や承継できずに廃院に至る事例も後を絶たない。

25年の実現を目指す国の地域医療構想は地域偏在を改善したとは言い難く、地域の医療を目指す医師・歯科医師の人材減少も現実的だ。歯科医師数は22年末に初めて減少に転じ、歯科医院数も21年以降減少が続く。医師・歯科医師の半数以上が札幌圏に集中する本道では、地域偏在が一層進んでいる。

20年の人口10万人あたりの医師数は251・3人と全国平均に近いものの、2次医療圏では上川中部及び札幌の2圏域を除く19圏域で全国平均を下回り、内5圏域では全国値の50％未満だった。歯科医師数（84・6人）も同様に札幌及び北空知を除いた19圏域で全国平均を下回り、1圏域は全国値の50％未満にとどまった。

22年の無医地区数は64と4年前から12減、地区人口も9170人と微減する一方、無歯科医地区は64地区（11減）に1万8804人（1337人増）と地区人口は増加している。広大な本道では医師・歯科医師の地域偏在が加速しているともいえ、その改善は喫緊の課題である。

真に医師・歯科医師数の適正化と適正配置を促進する施策と、財政措置を強く求める。

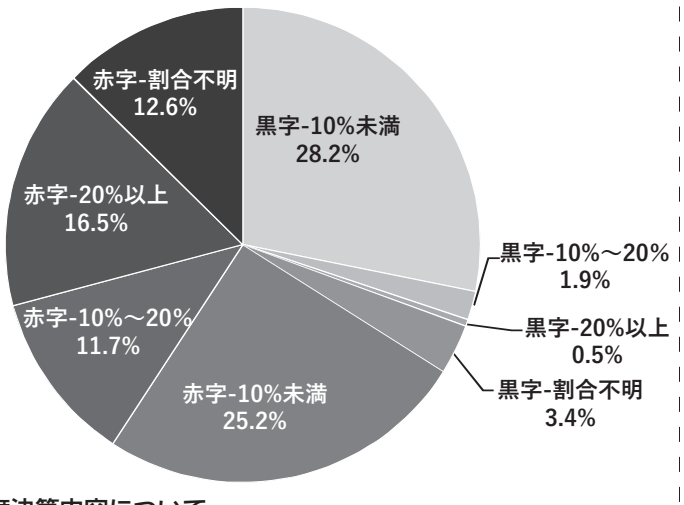

図1　2024年度決算内容について

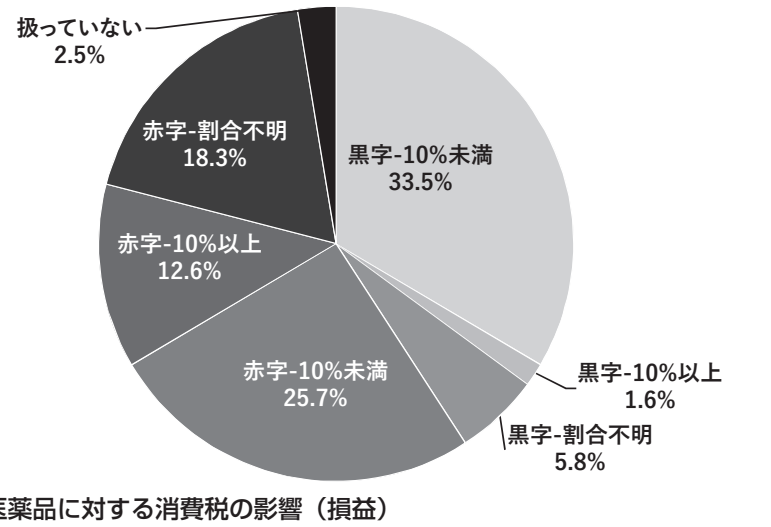

図2　医薬品に対する消費税の影響（損益）

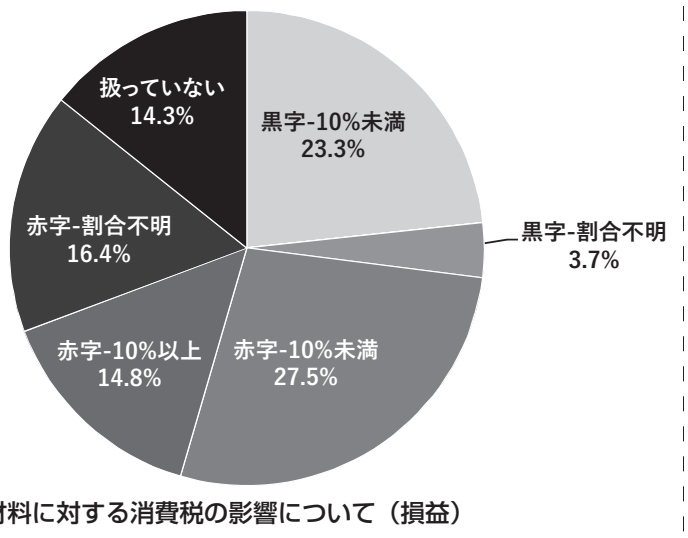

図3　特定医療材料に対する消費税の影響について（損益）

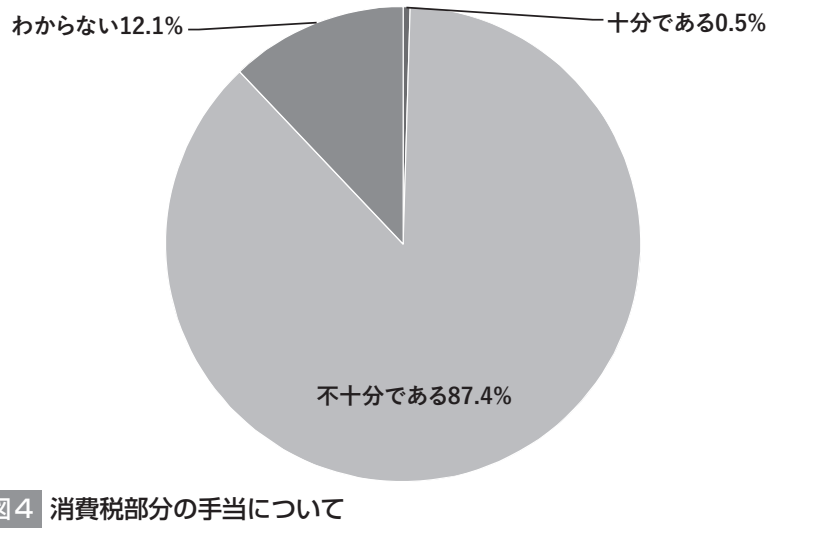

図4　消費税部分の手当について

北広島市

保健福祉部健康推進課

救急医療と産婦人科誘致

どさんこ通信179

北広島市は、札幌市と新千歳空港の間に広がるなだらかな丘陵地帯にあり、豊かに息づく緑の環境、ゆとりの土地空間、整備された交通網など、自然と都市機能が調和した街です。2023年3月には北海道ボールパークFビレッジが開業し、2024年度は約418万人の方が来場するなど、ボールパーク構想がもたらす新たな価値と機会が着実にあらわれ始めています。

市内の救急医療体制は、夜間急病センターと在宅当番医制度により365日の診療体制が維持されています。働き方改革等による担い手不足の課題もある中、大学等からの医師派遣や市内医療機関の協力により成り立っており、さらに2024年11月からは24時間看護師に電話で救急医療相談ができる救急安心センター事業(#7119)にも参画いたしました。

そのような中、市内では2003年以降、産科を標榜する医療機関が不在となっています。2018年には最大8000万円を補助する誘致制度を創設しましたが、出生数の減少など情勢の変化もあり、2024年10月には分娩を行わない産科も補助対象に含める改正を行い、現在も誘致を継続しているところです。

北広島市は、クラーク博士が「ボーイズ・ビー・アンビシャス」の名言を残したゆかりの地でもあります。そのフロンティア精神を受け継ぎ、これからも市民が安心・安全に暮らしていける医療提供体制を確保するため、各種施策に取り組んでまいります。

エスコンフィールドHOKKAIDO

親子一泊キャンプ旅行

夏休みに洞爺湖の自然を満喫！

8月2・3日、夏の恒例行事となった親子一泊キャンプ旅行を「グリーンステイ洞爺湖」で開催し、当日は洞爺湖を望むオートキャンプ場に16家族、親子あわせて43人が参加した。

午後5時から開村式が行われ、三浦副会長と大友理事の挨拶の後、全員で野外バーベキューの準備を行った。夕食では、大きな塊肉を熟成させたローストビーフをはじめ、冷えた生ビールやワインに舌鼓を打った。

子どもたちには菱川理事から昆虫や鉱物の標本がプレゼントされ、笑顔を見せていた。その後はスイカ割りや花火などで盛り上がり、楽しい一夜を過ごした。

翌日も参加者は思い思いに大自然を満喫した。最後に、今回のキャンプが節目となることから、常連の参加者に向けた感謝式が行われた。

家族サービスと会員・家族同士の親睦を深めた2日間はあっという間に過ぎ、盛会のうちに解散となった。

参加者からは「初めてのキャンプで不安だったが、テントの設営を手伝ってもらい助かった」「子どもがスイカ割りや花火を楽しむことができ、夏休みの良い思い出になった」などの声が寄せられ、大変好評だった。

読者のひろば

職場の「黄金律」をAIに聞いてみた

札幌支部　札幌しらかば台病院　後藤　啓

院長に就任して2年半。3つのAI(ChatGPT・Claude・Gemini)に「職場の黄金律」を尋ねてみた。最も共通していたのは「相手の立場に立つ」ことだった。

どんな場面でも「自分がその立場ならどう感じるか」を考えることが基本らしい。「なぜそう考え、そう行動したのか」を理解しようとする姿勢が大切だという。それなりの理由があるはずだ。

次に「感謝・称賛・謝罪を言葉にする」ことの重要性だ。「〝ありがとう〟と〝ごめんなさい〟は魔法の言葉」(Gemini)や「成果を率直に認める(称賛や感謝はケチらない)」(ChatGPT)など。「挨拶とお礼は、相手より先に」(ChatGPT)という指摘には、いつも後手に回っている自分を省みたくなる。

Claudeは「批判は行動に、称賛は人格に向ける」と、かなり上級者向けの助言もくれた。指摘する時は「あなたの○○という行動が問題だった」と行動にフォーカスし、褒める時は「あなたの努力家なところが素晴らしい」と人格を認める。これにより「批判は建設的になり、称賛はより深く相手の心に響く」という。

そして、黄金律中の黄金律が「自分がされて嫌なことは、人にもしない」(ChatGPT)である。論語の「己の欲せざること、他に施すことなかれ」や、新約聖書の「自分にしてもらいたいと思うことを他人にもせよ」といった、古今東西に通じる普遍的な教えである。

「約束を守る」も人気だった。「小さくても必ず守る」(Claude)や「約束と期限を守る」(Gemini)など、些細に思えることでも確実に果たすことで信頼が築かれるという。

情報共有の大切さも共通テーマだった。「報・連・相の徹底」(Gemini)を基本中の基本とし「わからないことは早めに聞く」(ChatGPT)や「悪いニュースこそ早めに共有する」(Claude)といった助言がならんだ。

改めて、意識して実践してみようと思う。

猫のいる幸せな生活

札幌支部　勤医協札幌ふしこ歯科診療所　花井　雅恵

幼少時から大の猫好きでしたが、実家を出てからは仕事、育児と忙しく極めば諦めていました。

転機が訪れたのは、2年前のある冬の日でした。夫と娘二人で近くのホームセンターに買い物に行ったところ、ペットショップでかわいい子猫との運命の出会いがあったのです。犬派の夫はもちろん反対しましたが、子どもはどうしても飼いたい！と2時間泣き続け、猫をお迎えすることに。私は傍観者のふりをしていましたが、内心大喜びでした(笑)。

新しい家族はラガマフィンとブリティッシュショートヘアのミックスで、長毛種の雌猫です。当時まだ2カ月だったため抱き上げたら壊れてしまいそうな、華奢でひ弱な子猫に見えました。おなかも弱く、すぐ下痢したり血便があったりで、病院通いが続き心配していたものでしたが、1歳を過ぎると体調も落ち着いてきて、可愛い姿で日々の疲れを癒してくれます。当初嫌がっていた夫も少しずつ距離が近くなり、家族で一番かわいがっているかなと思うほどに猫になじんでくれました。

これでも十分幸せだったのですが、今春、なんと2匹目の猫がきました！長女の受験の帰りに時間つぶしにと立ち寄ったペットショップに、そのラガマフィンの女の子がいました。顔の半分くらいあるのかと思うような大きな瞳と、ふわふわの淡い茶色の毛に靴下のような白い手足がかわいらしく、抱っこさせてもらった時じゃれたり膝で寛いだりと、その人懐っこい様子にすっかり離れられなくなり…。近くまできていた夫と次女をすぐ呼んで対面したら、あっという間にもう一人家族が増えてしまいました！

来た当初は先住猫とかなり喧嘩したり、くいしんぼうでエサを独り占めしたりといろいろ大変でしたが、いまではすっかり家族の一員です。

娘2人に猫2匹、子どもが4人に増えたようで、今とても賑やかで幸せな毎日を送っています。

北海道保険医会公式SNS　SNSでも情報発信中！

フォロー＆いいね！

お願いします

Instagram　X(旧twitter)　facebook

医科 保険診療研究

医療DX推進体制整備加算等の一部改定について

2025年10月より医療DX推進体制整備加算及び在宅医療DX情報活用加算のマイナ保険証利用率の実績要件が新たに設定されます。概要について説明します。

医療DX推進体制整備加算の要件見直し

○2024年度診療報酬改定において新設された項目について、当初、電子カルテ情報共有サービスに係る要件として「2025年９月30日までの間に限り、基準を満たしているものとみなす」としていたが、現在、同関連法案が未成立であることや電子カルテ情報共有サービスに関する対応等を踏まえ、経過措置期間を見直すこととなった。また、マイナ保険証利用率の実績要件について、今後もより多くの医療機関・薬局が医療DX推進のための体制整備を推進させるため見直しを行う（在宅医療DX情報活用加算も同様）。

医療DX推進体制整備加算	
利用率実績	2025年１月～
適用時期	2025年４月１日～９月30日
加算１・４	45%
加算２・５	30%
加算３・６	15%※1

↓

医療DX推進体制整備加算（見直し後）		
利用率実績	2025年７月～	2025年12月～
適用時期	2025年10月１日～2026年２月28日	2026年３月１日～５月31日
加算１・４	60%	70%
加算２・５	40%	50%
加算３・６	25%※2	30%※3

◆電子カルテ情報共有サービスの経過措置は2026年５月31日まで延長。

※「小児科特例」について、対応を継続する。

※１　小児科外来診療料を算定している医療機関であって、かつ前年（2024年１月～12月）の延べ外来患者数のうち６歳未満の患者の割合が３割以上の医療機関においては、2025年４月１日から９月30日までの間に限り「15%」を「12%」とする。

※２　※１の条件を満たす医療機関においては、2025年10月１日～2026年２月28日までの間に限り、「25%」を「22%」とする。

※３　※１の条件を満たす医療機関においては、2026年３月１日～５月31日までの間に限り、「30%」を「27%」とする。

在宅医療DX情報活用加算の要件見直し

在宅医療DX情報活用加算		
2025年４月１日～2026年５月31日		
	電子処方箋	点数
加算１	導入済	11点
加算２	未導入	９点

◆電子カルテ情報共有サービスの経過措置は2026年５月31日まで延長。

※点数の変更はなし。

◇　◇　◇　◇　◇　◇

マイナ保険証利用率については、本年12月１日に発行済の健康保険証への経過措置が終了することを踏まえ、より多くの医療機関・薬局で医療DX推進整備が進むものとし、時期に応じて、マイナ保険証利用率の実績要件を２つの時期に分けて設定することとなった。また、本年９月末までの経過措置としていた「電子カルテ情報共有サービス」については現時点で法案が未成立であり、来年５月末まで経過措置期間が延長されることとなった。

来年度診療報酬改定でも医療DX関連項目は議論されることと思われるため今後も注視されたい。

保険医こぼればなし

日本人と米

現在、歯科健診を受託している保育園で、朝食に何を食べているかアンケートをとったところ、パンを食べている家庭が５割を越えており、今の日本全体の現状も同様であると思われる。

戦前に日本に入ってきた当初、パンはおやつとして食べられていたが、第二次世界大戦後の栄養改善運動で食の欧米化が進められたこと、またアメリカの余剰小麦が食糧援助の名目で大量に日本に入ってきたことから、食事として定着したと言われている。

日本人の米の消費量は現在、ピーク時（昭和37年）のおよそ半分となり、敗戦国にならなければ、今も米を主食とする食生活を続けていただろう。

国の指針では主食を「ごはん・パン・麺」と同じ位置づけにしている。しかし、ごはんを食べる日本とパンを食べる欧米とでは食生活のパターンが異なるため「ごはんのかわりにパンを」とはならない。日本では、ごはんを食べなから、魚・肉・野菜などの副食を取る。副食が足りなければ、おにぎりといったごはんだけでもお腹を満たすことができ、文字通り「主食」となっている。一方、肉食率の高い欧米では、主食的なものははっきりしない。肉や魚のメインディッシュをおいしく食べるためにパンを食べるため、その役割は日本のごはんとは大きく異なる。

米の自給率はほぼ100%だが、小麦の自給率は20%に満たない。これまで米は「余っている」という認識が強かった。しかし昨年は米不足が起き「令和の米騒動」と呼ばれる事態となった。子育て世帯ではまだまだ米の消費量は多く、まもなく収穫を迎える今秋は米を確実に手に入れられることを願う。米は日本人の体にあった食べ物であり、日本の地に適した農産物である。健康と伝統を大切にするなら、日本人の食事に欠かせないのは米である。（大友）

保険医会の動き

〈7月〉
5日　文化講演会
22日　第４回理事会

〈8月〉
2日　歯科スタッフセミナー
2～3日　親子一泊キャンプ旅行
3日　函館地区支部・本部共催講演会
26日　第５回理事会

理事会だより

■第４回理事会
日時　7月22日（火）
場所　本会会議室（ウェブ）
協議事項
①８月度の主な活動について
②外部監査の委託事務所の変更について
③旭川地区支部より支部活性化助成金の活用依頼について
④会員・未入会員向アンケートについて
⑤退会時の会費の返金について
⑥その他

■第５回理事会
日時　8月26日（火）
場所　本会会議室（ウェブ）
協議事項
①９月度の主な活動について
②消費税及び特定保険医療材料に関するアンケートについて
③基本準備引当金の活用について
④保険医年金の２０２４年度の配当および２０２５年度適用利率等について
⑤審査対策部の委嘱について
⑥郵送物における封筒からOPP袋の変更について
⑦その他

会員訃報

駒木根　武利先生　2月23日ご逝去（76歳）
小野　温先生　6月21日ご逝去（85歳）
小松　格一先生　6月5日ご逝去（87歳）
岸川　和弘先生　4月16日ご逝去（69歳）
松尾　喜徳先生　7月31日ご逝去（90歳）
高橋　直也先生　ご逝去（57歳）
謹んでご冥福をお祈りいたします

会員親睦ボウリング大会

日　時
10月25日（土）17：00～
定　員
先着66名
参加費
会員・家族…5,000円
従業員　…6,000円
会　場
GIGOBOWLノルベサ
※お申込みの際はチームごとにお申込みください。